



# friendship force

## WESTERN TOKYO

No. 10 2010, January



日本大会 2009年2月28日(土) 代々木 オリンピック青少年総合センター

## 2010年予定

### 総会

1月23日(土) 11時30分～14時30分  
ホテル・ザ・エルシー 龍皇  
問合せ先 高垣 幸子 042-796-6797

### 日本大会

2月27日(土)～28日(日) 奈良クラブ主催  
問合せ先 高垣 幸子 042-796-6797

### 渡航

スロバキア プラチスラバクラブ  
5月15日(土)～22日(土)  
問合せ先 高垣 孝 042-796-6797

### 世界大会

ワシントン DC アメリカ  
10月16日(土)～18日(月)  
問合せ先 石井 嗣代 044-852-5231

### 受け入れ

エストニア タリンクラブ  
10月予定  
問合せ先 柳川 善一 03-3419-3018

### 関東ブロック会議

東京クラブ主催  
夏頃予定

# FF日本大会

## 柳川善一会長

一年以上にわたり準備してきました日本大会も、何とか事故なく乗り切ることができました。幸い 6 日ぶりの太陽が現れて、一日天候に恵まれたのは何よりの天の配剤でした。これまでの努力も参加者からの有難いお言葉で報われたような気がしています。本当に有難うございました。



開会挨拶 柳川会長

## 石井健二準備委員会副委員長

当クラブは昨年2月28日(土)、1年余りの準備を経てFF日本大会(第22回)を国立オリンピック記念青少年総合センター(都内代々木公園)で主催しました。1日のみでしたが、これまでの大会で最多に近い195人の参加を得て、なごやかに熱心な雰囲気の中、有意義な会合を持てました。詳細は、FF日本のホームページ、会員向け文書庫に大会議事録として、また、沢山のスナップ写真も掲載されています。



全体会議デビーパウエルさんのスピーチ

## 1 開催準備

H19.12~H20.3: 交通の便、施設、費用などの点から会場は上記センターを利用することにし、利用申し込みし、約2ヶ月後(3月)正式承諾を頂く。準備委員会を発足させ、組織、担当を順次拡充。全体会議では、各クラブの組織・活動実態のアンケート結果を数値化し、グラフでビジュアルに示すこととした

H20.4-9 : 開催日程を各クラブに連絡。アンケート

内容を検討の上各クラブへ送付。3つのワークショップ(WS)、懇親会、代表者会検討開始。計画を当クラブ会員に連絡し協力要請。大会スローガン(「FFの輪、より広く、より新しく、より深く」)決定。懇親会場レストラン打ち合わせ、予算案、会場施設・設備見学。

H20.10-12: 開催案内(会議参加、センター宿泊棟利用申し込み書)送付。アンケート回答まとめと解析。参加費、宿泊棟利用費振込み依頼(クラブ每一括)。WS、懇親会の内容をつめ、関係クラブ、出演者に依頼。来賓に案内状届け。

H21.1-2: 当クラブ総会で準備状況を報告。会場設備・機器の操作法習得。配布冊子制作。全体会議発表予行。WS詳細打ち合わせ。当日の業務分担表、手順書作成。クラブ名札等大会用品購入・制作。集合写真、スナップ撮影打ち合わせ。

## 2 大会

前泊、早めに参集頂いた会員で配布物、机・椅子、看板、機材、道案内など会場の設営、宿泊棟利用者への案内、12時からの受付に続いて、13時から大会が行なわれた。

### (1)全体会議 (13:00~14:45、国際交流棟)

柳川会長開会の辞の後、来賓 FFI デレクター デビー・パウエルさん(急な腰痛のため来日出来なくなったブラウン会長の代役)は、2009年の世界的な経済危機の影響で、今後交換のキャンセルが多く出ると予想されると指摘。FFI 本部は人件費削減など経費削減、ホームページの充実や、融通性のある交換プログラムの導入により交換数の維持に努めているむね報告、一層の理解と支援を求めた。参加クラブの紹介に続いて、本題に入り、議長として、高垣(孝)会員を選出。議長はアンケート結果にもとづきFF日本の全体像と各クラブの特徴をパワーポイントを駆使し紹介すると共に、課題・今後の取り組みにも触れた。次いで、特徴あるクラブから補足説明を頂き、質疑応答した。来賓の石坂町田市長は公務のためご出席は叶わず、配布冊子に挨拶文を寄せてくださった。



全体会議

## (2)代表者会議(15:20～16:30、国際交流棟)

東北、関東、中部、西日本のブロックFF(フィールドレップ)による前年度ブロック会議の報告に続き、各クラブの代表者から自己・クラブ紹介を頂いた。議事に入り、FFの新しいロゴの取り扱い、使い方について、WM(ウェブマスター)、佐々木氏から映像を用いて詳細な解説を頂き質疑。パウエルさんから補足説明も頂き、本部の取り扱い指針を了承した。次回第23回大会は2010年2月、奈良クラブが主催頂けることになった。予定した他の議題は次回に繰り越すことにした。



代表者会議

## (3)ワークショップ(15:20～16:30、国際交流棟若しくはカルチャー棟)

他クラブ会員の協力を得て下記3つのWSを持った。それぞれ大勢の参加者を得、熱心に練習、実演、発表・質疑がなされた。

### WS1: 「歌唱指導」指揮・指導、斎藤和夫先生 合唱練習 “見上げてごらん夜の星を” “FFの歌”



WS1 歌唱指導

### WS2: クラブ活性化のための取組み: 事例発表 郡山クラブ会員 縫洋子氏

活性化のポイント① 受入体制; ② 組織; ③ サークル活動; ④ 会員活躍の場; ⑤ 新規会員確保; ⑥ 会費・収入源



WS2 司会者

### WS3: 「エンターテインメント」

- 1) 日本の誇るハイテクゴルフに挑戦……西東京クラブ
- 2) カントリーダンス……東京クラブ
- 3) 河内音頭……奈良クラブ



WS3 Wiiのゴルフ

### WS3所感 社本専一

日本各地のFFメンバーが外国からのお客様をおもてなしするのに役立つような演し物。また逆に、日本メンバーが世界各地のFFに招かれたとき、余興としてお見せできる作品。この二つの観点から、日本らしい遊びのサンプルを、このFF全国大会の機会に提供しようと、大胆にも考えました。

チーフの佐原泰子前会長を中心に検討を重ねましたが、議論の結論としては、①日本古来の民俗芸能的なもの②マンガや癒し喫茶の様な若い世代のアカバ的な物③ハイテック・ジャパンを象徴する様な物、に絞られてきました。

3者を比較検討の結果、知性のなせるわざか、③のJapan Coolを示すようなハイテック玩具を選ぼうとの野心に駆られてしまいました。デパートの玩具売り場を梯子したり、電子玩具メーカーのショールームを歴訪したりして、日本おもちゃ産業の現場を勉強しました。FFの場という環境の制約を考慮した場合、思いつきだけでは拍手喝采を頂けない事を痛感しました。

イ)言葉のハンディが生じない事、ロ)演し物をカバンに入れて世界中持ち運べる事、ハ)電気や通信を含むハイテック玩具の場合、電源やOSが世界中使える事、などなど。

これらをすべて解決した上に、観客の笑いを取る事は非常に難しいものである事がじわじわと判ってきて、“うつ”の壺にはまりこんでしまいました。

ギブアップ寸前の放心状態の中、チームリーダー殿がテレビで任天堂のWiiのコマーシャルに目をとめて、これで行こうという事になりました。藁にでもすがりたい心境でありましたので全員一致で即決しました。

1年後の現在顧みれば、Wiiの方も発売直後でしたので遊びのテーマのソフトの数が少なく、ソフトの中身も単純な初歩的なものばかりでした。野球・テニス・競馬などのスポーツソフトの中から、FF演芸の制約を考慮して、a)単純で理解しやすいこと、b)ルールが判り易いこと、c)プレイヤーもオーディエンスも一緒に楽しめること等を考え、ゴルフのゲームを選びました。

当日、担当である我々がWii Golfをマスターしてデモを行ない、FFジャパンの皆様に見て戴かねばなりません。我々はチームメンバー大西様のお宅に押しかけてご自宅のテレビにWiiを繋いで練習に励んだ結果、当日未熟ながら、FF会員皆様の前で無事デモを行うことが出来ました。

レポートを書いている今、振り返ってみれば、成功(自画自讃!)の最大の理由は、デモ担当の我々が当日自分の名前を改名して“遼ちゃん”と“藍ちゃん”と名乗り、世界的プロゴルファーの気分になりきった事だったと思います。

### (3) 懇親会 (18:00 - 20:30)

パーティは“着づ”(テーブル着席とビュッフェの組合せ)形式で、また、テーブルは中央の来賓テーブルのほか、当クラブ会員以外は籤引きとし、会員相互の交流を図った。テーブル毎の自己紹介後、祝辞、乾杯(発声、デビーさん)に続いて会食。



懇親会乾杯

FF日本の黎明期からご支援頂いている、衆議院議員 愛知和男氏から祝辞を頂いた。次いで、2009年度FF世界大会開催予定地だった、沖縄のDVD放映、沖縄世界大会へ向けてステージで写真撮影(その後、世界的な経済不況などのため沖縄大会は中止)、カントリーダンス(東京ク・WS3)、西東京ク20周年記念映

像、表彰式(詳細は別掲)、奈良クラブへのFF日本の旗の引継ぎ、奈良ク 大西会長挨拶に続き、“FFの歌”を映像つきでWS1メンバー主導で、出席者全員斉唱し、最後に山本敏雄大会実行委員長による閉会の挨拶でお開きとした。

### 3 まとめ

大会終了後、WM 佐々木氏が字幕挿入など加工くださった集合写真を、各クラブにお送りすると共に、FF日本のHPIにも掲載頂きました。会議、WSの内容は、議事録(案)を各クラブに送付して確認頂き、一部修正の上、HPIにも掲載頂きました。一方、会議、WSのほか、懇親会、事務局、会場設営、機器操作、宿泊棟利用など円滑な会合を支えて頂いた各位にも、ご担当頂きました業務についてメモ作成をお願いし、当クラブの記録としました。

今大会、反省点もありますが、参加者の評価が良好だったことは、主催者として満足、光栄なことでした。成功裡に開催できた要因は、良い会場を確保できた幸運もありますが、①プログラムの選定、具体化、運営が適切であったこと(特に、全体会議でのクラブの現状分析の発表を数値化、映像化して行ない分かり易かったこと、また、ワークショップのテーマの選択・運営が適切だったこと)、②会長のリーダーシップのもと、会員各位が得意な能力をそれぞれ発揮されご協力いただいた、また、ワークショップや懇親パーティ、さらにスナップ写真撮影などでは、小さな西東京に快く他クラブの皆様が力を貸して下さったこと、などが挙げられます。

皆様の、ご協力、ご支援に心から御礼申し上げます。



名カメラマン 有難うございました

石井嗣代

加藤幸子さんと石井嗣代は宿泊係としてD棟の宿泊希望者のお世話をしました。部屋数も希望者数とほぼ合致し、お役所的な規則の煩雑さには少々うんざりしましたが、何事もなく大変良心的なお値段で皆様に宿泊場所を提供できて良かったと思います。急に気分が悪くなられた人のために予備の部屋を使え、これもうれしかったことです。全体を見れば、代表者会議は1時間ちょっとでは自己紹介のみに終わってしまい、せ

っかくお集まりいただいたので、もう少し時間が欲しかったように思います。

全体会議のアンケートの分析は興味深く皆さん熱心にご覧頂け、大成功でした。

ワークショップは持ち場持ち場が本当に適材適所で、皆さん一人ひとりの特技が生きて小さなクラブであるにもかかわらず、すっきりとうまくできたと感じました。

レセプションの料理は、寿司は後からも出てきてたっぷりあったようですがテーブルはチキンが不評に見受けられ、残っていました。代わりにオードブルが2皿でも良かったかなと思います。チャーハン、サラダも大幅に残っていましたので、これも代わりにケーキはもうちょっとたっぷり欲しかったと思います。青少年教育センターですから、どうしても若者向きのメニューを揃えて、ここもお役所的に対応しているのでしょうか。

レセプションの司会の今村さんの声が長方形の会場の後ろの席まで良く美しく通っていたのが、印象的でした。クラブ員はばらばらにくじでお入りになる出席者の間に入ることに決まっていたのですが、決まりの席に行ったら空気がなくて、結局空いているところに座ったり、臨機応変に対応しました。

最後の歌は、当日慣れない機器がなかなか言うことを聞いてくれないにもかかわらず、講師の先生に何とかおまとめ頂き、FFの歌を歌って閉会としました。



レセプションで東京クラブによるカントリーダンス

Asia Pacific Festival に参加して

#### 今村佐知子

フェスティバルは楽しいそうよ。何しろ英語で議論しなくてもいいし...などと聞こえてきてそれなら是非参加したいと手を挙げたところ ED になってしまいました。折からの豚インフルエンザと不況の影響で参加者は全部で47人、日本からは9人で西東京から4人参加、タイからは8人残りはハワイとアメリカ本土の30人でした。6月4日から8日までオレゴン州のセーラムで開かれたフェスティバルはオレゴンの Mid-Willamette Valley Club の主催によるもので14,5人のアクティブメンバーが連携プレイよろしく実にテキパキと動き又手渡された

パンフレットには予定表や訪問先のガイドが分かりやすく記載されていました。チェックインタイムの繰上げや hospitality room の手配(4日間広い部屋を安く借り上げてメンバーの交流や事務処理の部屋として使用)などホテルとの交渉の腕も見上げたものです。ツアーは予め2コースから参加者が選択、スタッフはバスに同乗し丁寧にガイドしてくれました。薔薇やアイリスなどの植物園をはじめ、ワイナリーでの試飲、ポートランドローズフェスティバルを予約席で見物するなどまさにタイトルどおり薔薇とワインを五感で味わう一方コロンビア溪谷観光などオレゴンの大自然も満喫できた旅でした。色々なクラブとの交流ができるのもフェスティバルの醍醐味です。



フェスティバル歓迎会

ポストホームステイはシアトルでの3泊4日でした。リターン訪問となりますのでお互い気心も知れより深い交流ができました。シアトルはオレゴンとは景色も雰囲気も異なり坂の多い神戸を思い出させる町です。優しく誠意ある ED が3日は短すぎると言って汗をかきながら盛りだくさんのもてなしをしてくれました。FFのメンバーの素晴らしさを味わった9日間でした。2年後のフェスティバルにも是非参加したいと思っています。有難うございました。

#### 関東ブロック会議開催報告

平成 21 年 11 月 22(日) 14:00 -17:00

於 つくし野センター

石井健二

出席者: 東京クラブ5名(渡辺会長ほか); 埼玉クラブ5名(沼会長ほか); 西東京クラブ11名(主催ク、石井(健)副会長ほか); 石井(嗣)FRコーディネーター  
報告事項: 沖縄世界大会キャンセルとその後、日本からFFI理事誕生(余村とこ氏)に続き、下記議題について、各クラブ、FRコーディネーターからの報告に続いて活発に検討されました。1. 交換の評価; 2. アンバサダーフィーの使い方と会計報告; 3. FF交換のありかた(日本大会全体会議議題); 4. 渡航の際の旅行社の決定、保険の扱い; 5. FFIの来年の交換ポリシー。  
詳細はFF日本のホームページに掲載しました。

## 西東京クラブ 20周年に寄せて

佐原泰子

平成21年FF日本大会懇親会に於いて、西東京クラブの20周年を祝うことが出来ました。柳川現会長自ら西東京クラブ歴史DVDを作成され、初代会長佐原 勇、初代副会長大西宣也両氏が20年前に西東京クラブを立ち上げ、またそれ以降の活動を発表されました。



日本大会で Debbie Powel さんより20周年の表彰を受ける

少人数からのスタートでしたので、当初は受け入れのみを主活動にホスト家庭を探しながらの発進でしたが、20周年を迎えられたのは誠に意義深いことです。

当時の日本は色々な意味で勢いがあり、どの世代も皆働くことに意義があると確信していた時代でもありました。ところが昨今のアメリカ発の不況により日本人の意識も随分変化してきたように思われます。

人や環境への思いやり、優しさ 等々急に目覚めて来たのではないのでしょうか？ フレンドシップ・フォースの活動を通して、我々会員の意識は世間より一歩も二歩も先を歩いていたことに気づきます。

今こそ多くの人々に声を掛け、世界の人々との地道な交流の大切さを広めて活発に活動するときだと思えます。ボランティアや社会活動をしているから偉いと言うことでは決してありませんが、身近に出来ること、自分に出来ることを見つけ、今、何が出来るかを改めて考える時期が来ていると思えます。

FFを始めたアメリカ元大統領カーター夫妻や初代会長Dr. ウェイン・スミス氏らは、そう言う意味で先を読む力のある人達だなあと感心します。

アメリカ発フレンドシップ・フォースが30年以上続けて来られたのも(問題が大き過ぎるといつても何もやらないのではなく、まず自分の家庭から始めていく、そうすれば何かを突破出来るということに気づき)、続けてきた人々がいたからでしょう。そういう意識に、日本全体も追いついて来ている気がします。

会員の高齢化とかマンネリ化という問題に悩んだりせず、まだこの活動を知らない人に、また何かを始めようと気付いた人に啓蒙することを心掛けたいものです。

今、改めて感じることは、西東京クラブ20周年を迎えたからこそ自分自身に気付かされた事が大変大きかったということです。

### 2010年度会費納入のお願い

本会の活動は会員の皆様の温かいご支援によって運営されています。本年も更なる会の発展と活動のために、ご協力をいただかなければなりません。同封の「郵便振込用紙」により年会費 3,000 円の納入を2月末日までお願いいたします。(会則第6条)

編集発行: ザ・フレンドシップフォース・西東京

発行責任者: 東京都世田谷区上馬 2-37-12-701

柳川 善一

Tel & Fax : 03-3419-3018

e-mail : w-tokyo@friendshipforce.jp